

「バイオものづくり革命推進事業」プロジェクトに関する意見

経済産業省 生物化学産業課 殿

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 殿

令和7年10月31日

産業構造審議会 商務流通情報分科会 バイオ小委員会

バイオものづくり革命推進ワーキンググループ

本ワーキンググループで実施した議論を踏まえ、事務局（経済産業省 生物化学産業課）、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）におかれては、プロジェクト推進に当たって以下の点に留意のうえ、今後のモニタリングにおいて、その対応について報告されたい。

- ・ 各社の事業計画について、出口戦略や市場性の具体化が不足しているものがあるため、自社による設備投資計画も含めた、少なくとも 2040 年までの事業計画を確認するとともに、評価の際には実証成果だけではなく事業化の道筋も重視すること。
- ・ 製紙各社が連携した取り組み自体は評価できる。一方、糖化酵素の開発といったバイオファウンドリ基盤は限られた企業に依存していることから、それらの役割分担や共通化を戦略的に検討し、重複や過大な投資を避けること。
- ・ 出口製品が食品関係の場合、その上市は、消費者庁で検討されている表示や安全に関する規制に大きく依存することから、連携して進めること。
- ・ さらなる企業努力も必要であるが、国際標準化やルール形成は企業任せでは進みにくいため、国として積極的に支援し、日本発の枠組みづくりを後押しすることが期待される。
- ・ 4 次公募においては、上記を踏まえた案件の採択に努めること。

以上